

# 1 災害時の町の対応

災害時、町では災害の程度に応じて次の体制をとり、風水害や地震による被害を最小限に抑えるための対策をたて、行動します。



- 担当課職員が中心となり、情報の収集に努めます。
- 職員はいざというときに備えます。



- 担当課職員が集まり、対策を検討します。
- 緊急に避難が必要と判断した場合は、避難準備情報、避難勧告・指示を行います。
- 職員と消防団員が、河川や堤防などに異常がないかパトロールします。



- 町長は、災害対策本部を設置し、応急活動に当たります。
- 町や消防団だけでは対応できないときは、県や自衛隊に応援を要請します。
- 危険区域の住民には、必要に応じて避難の準備をお願いします。町は、避難勧告・指示等を発表し、非常時に対応します。

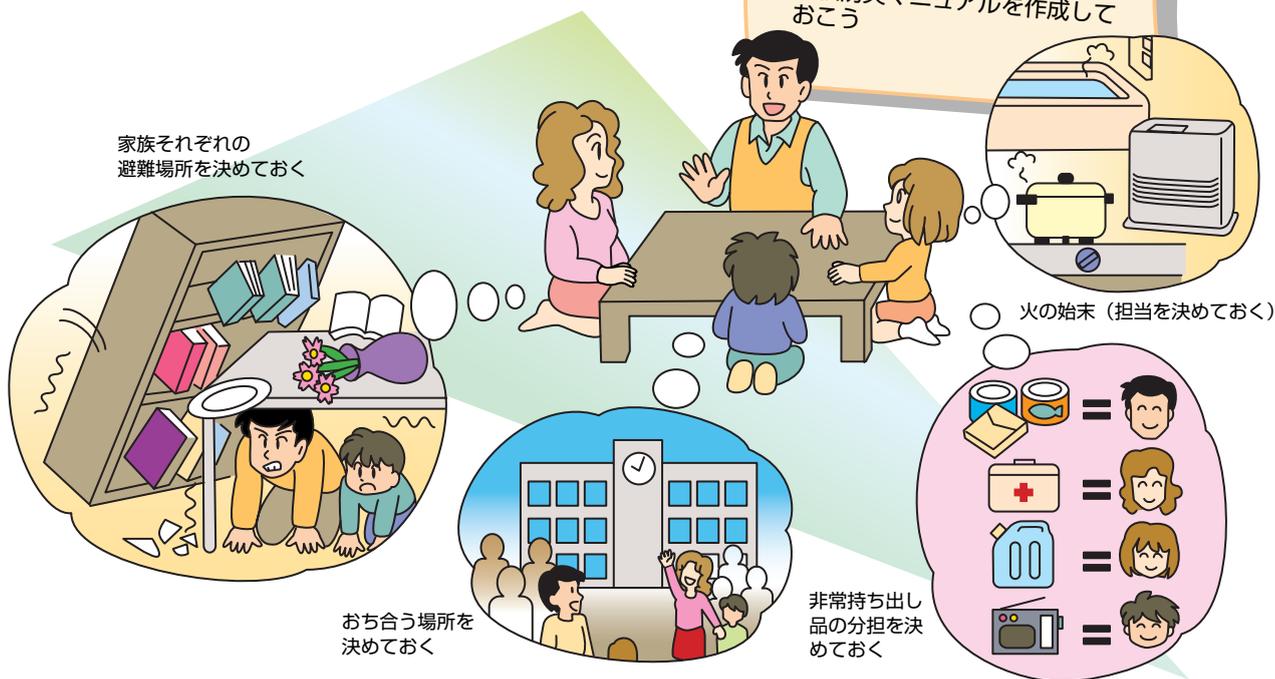


※   は自動配備基準

## 2 日ごろの備え

### 1. 月に1度は家庭で防災会議を

家族の防災意識を高めるため家庭で防災会議を開きましょう。定期的な話し合いの積み重ねで、いざというときには適切な行動がとれるようになります。また、家族単位だけでなく、隣組の合同会議がもてれば一層心強いですね。



※これらすべてを家族全員で話し合い、万一の災害に備えたいものです。

### 2. みんなで防災訓練を

災害時の防災活動は、自治体や消防機関などで全力を挙げて行います。しかし、通信手段の混乱や消防力の分散などで、防災活動が十分に行えないことも考えられます。そんなとき、頼りになるのは“ご近所の方たち”です。でも、いざというときに一人ひとりがバラバラの行動をとっていたのでは、せっかくの活動も十分な力を発揮することはできません。自分たちの住む地域は自分たちで守るという自主防災の気持ちが大切です。被害を最小限に食い止めるため、地域で防災訓練を計画し、実施しましょう。

- ◆自主防災組織をつくる
- ◆防災リーダーを育てる
- ◆消火方法を身につける
- ◆応急救護方法を身につける



# 3 地域の自主防災活動

## ● 自主防災組織の必要性

私たちは災害の発生を防止することはできませんが、普段からの備えにより、災害による被害を少しでも減らすことはできるはずで

す。しかし、大規模な災害が発生した場合には、住民一人ひとりの力ではおのずと限界があり、「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主防災の組織的な体制のもとで、地域の皆さんが協力し合っ

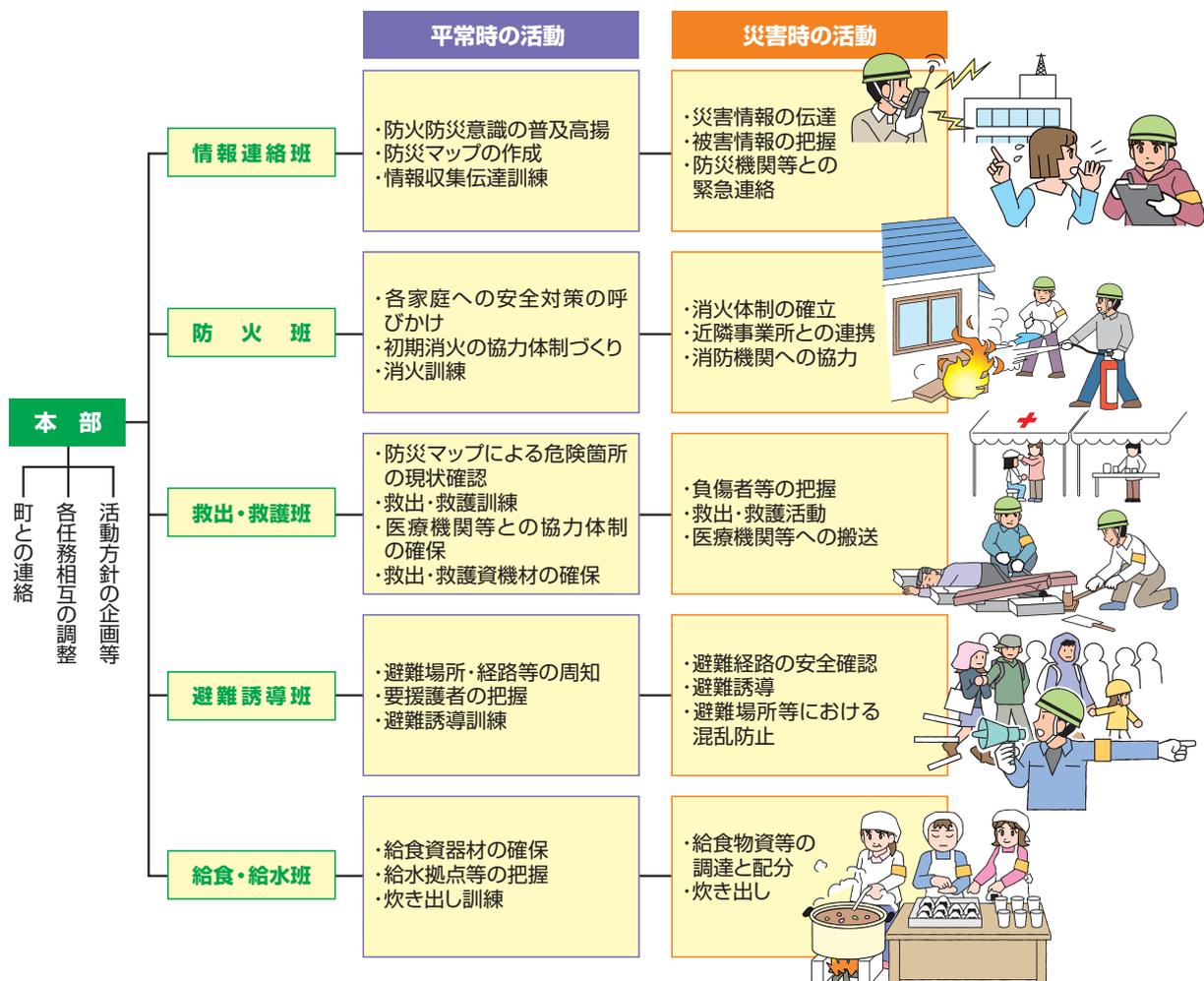


て、災害に立ち向かうことが重要になります。このように、地域社会の中で防災という共通の目的を持って結成されているのが、自主防災組織です。現在の自主防災組織は、地域の自治会等の組織を活用して結成されています。

活動の中心となるのは、そこに住んでいるあなた自身です。

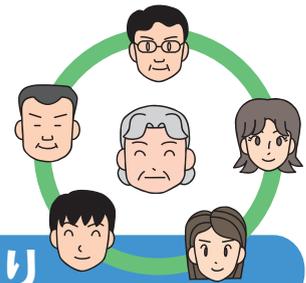
## ● 自主防災組織の構成と活動内容

自主防災組織は、迅速かつ効果的な活動ができるように部（班）の構成を行います。以下の例を参考に、あなたの地域でも自主防災活動を積極的に進めましょう。



# 4 災害時要援護者にやさしいまちづくり

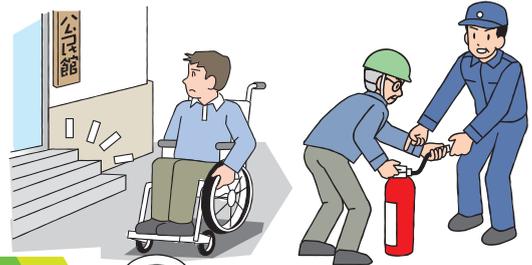
年齢や障害、言葉の壁などによって、災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人を災害時要援護者といいます。阪神・淡路大震災の犠牲者でもっとも多かったのは高齢者でした。災害時要援護者を守るために、地域が一丸となって取り組んでいきましょう。



## ● 災害時要援護者が安心して暮らせる地域づくり

### 要援護者の身になって防災対策を

要援護者の人たちに対して、どうしたら情報が正確に伝わるのか、避難誘導等を行う際にはどんな支障があるのかなど、要援護者の立場に立って考え、防災環境や防災体制を改善していきましょう。そのためにも、要援護者の方にも積極的に防災訓練に参加していただくことが大切です。



### 日ごろから地域でのコミュニケーションを

日常の支援活動こそが、要援護者対策そのものといってもいいでしょう。日ごろからコミュニケーションをもち、プライバシーや個人情報に配慮しつつ、地域ぐるみでの支援体制を整えましょう。



### 家庭の中での習慣づけを

家庭内のちょっとしたことで、要援護者対策はできるものです。また、隣近所の協力は不可欠ですから、普段のつき合いの中で相互理解を深めましょう。



## ● 要援護者を避難誘導する際のポイント

災害発生という非常時には、身体・言語に不自由のある人ほど、状況の変化に対してより大きな不安を抱くものです。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心がけましょう。



**高齢者・傷病者**

- ・複数の人で対応。
- ・緊急時には、おぶったり、担架を使ったりする。

**目が不自由な人**

- ・つえを持つ手と反対側のひじのあたりに軽く触れ、半歩前を歩き、ゆっくりと誘導。
- ・誘導先の障害物や道路状況等を説明しながら進む。

**耳が不自由な人**

- ・口を大きく動かし、はっきり、ゆっくり話す。
- ・筆談、身ぶりなどで伝える。

**外国人**

- ・まずは身ぶり手ぶりで意思の疎通を図る。
- ・外国語が分からないからといって、逃げたしまわれないこと。孤立させないことが大切。

**車いすの人**

- ・階段では2人以上で支援を。上りは前向き、下りは後向きで。
- ・救援者が1人しかいないときは、おぶいひもを使って背負う。

自助・共助・公助

# 5 非常時に役に立つもの

災害時に備えて準備しておくものは、家族構成を考えて必要数をそろえ、保管しておきましょう。また、非常持出品は、リュックサックなどの非常持出袋に入れて保管し、それ以外の備蓄品とは分けておきましょう。

## 最低限準備しておくべきもの(非常持出品)

### ●懐中電灯

できれば1人に1つ用意を。予備電池・電球もあわせて準備。



### ●携帯ラジオ

AM・FM両方を聴けるものを用意。予備電池も多めに準備。



### ●救急医薬品

消毒薬、包帯、絆創膏、かぜ薬、解熱剤、胃腸薬など。常備薬があれば、必ず準備。



### ●非常食及び飲料水

調理の不要な缶詰、乾パンなど、3日分を用意。水はペットボトルで準備を。



### ●現金・貴重品

現金には、公衆電話の活用を考慮して、10円硬貨も入れておくこと。貴重品は、預金通帳、健康保険証、免許証のコピーや印鑑など。



### ●ヘルメット・軍手・タオル・着替え(上着・下着)

一人ひとりに準備。着替えの衣類は、長袖・長ズボンを用意。



### ●その他

ライター・マッチ、ろうそく、ナイフ、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、ウェットティッシュ、ビニールシート、生理用品など。乳幼児やお年寄りがある家族は、ほ乳瓶、粉ミルク、紙おむつなども忘れずに。



## 被災後の生活のために準備しておきたいもの(災害用備蓄品)

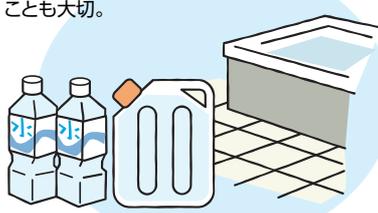
### ●食料

缶詰、レトルト食品、カップ麺、栄養補助食品など。非常食3日分を含め、7日分を目安に確保しておく。



### ●水

1人1日当たり3リットルを目安に、3日分の備蓄を。ペットボトル、ポリタンクへの汲み水のほか、風呂桶への貯水を習慣づけることも大切。



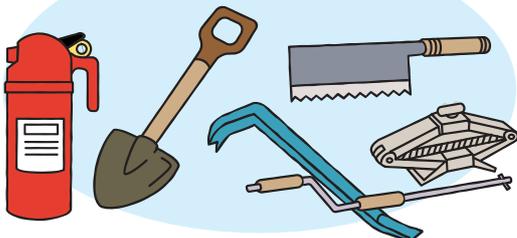
### ●カセットコンロなど

予備ボンベも忘れずに。野外バーベキュー用品(木炭・固形燃料もあわせて備蓄)も便利。



### ●消火・救助用品

消火器、のこぎり、スコップ、バール、車のジャッキなど。



### ●その他(阪神・淡路大震災で役に立ったもの)

- ・ホイッスル
- ・予備の眼鏡・補聴器
- ・ビニールシート
- ・ビニールラップ
- ・新聞紙
- ・携帯トイレ
- ・使い捨てカイロ
- ・裁縫セット
- ・ガムテープ
- ・地図
- ・さらし
- ・筆記用具(マジックなど)など

※大規模災害の発生直後は、ライフラインの損壊等により、救援物資がすぐには届かないことも考えられます。発災から最低3日分の非常食及び飲料水を準備しておく必要があります。

# 6 知っておきたい応急手当

**人が倒れた!**  
(成人の場合)

## 反応は?

肩を叩きながら耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼びかける。



## 119番通報

意識がなければ、「だれか来て!」と助けを求め、119番通報を依頼。一人きりの場合は自ら通報を。

## 呼吸は?

### 気道の確保

片方の手を額に当て、もう片方の手の人差し指と中指をあご先に当てて持ち上げる。

### 呼吸の観察

視線を胸腹部に向け、口、鼻に頬を近づけ呼吸音や吐息、胸腹部の動きを10秒以内に確認。



## 人工呼吸・心臓マッサージ

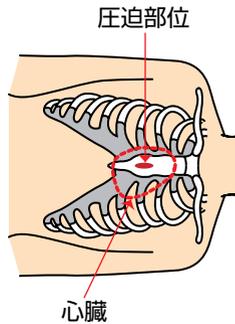
### 人工呼吸(省略可)

普段どおりの呼吸がなければ、気道を確認しながら鼻をつまんで鼻孔をふさぎ、約1秒かけて息を吹き込む。いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込む。このとき、傷病者の胸が持ち上がるのを確認する。



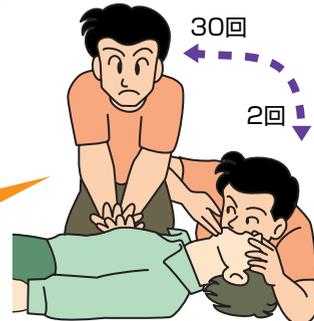
### 胸骨圧迫(心臓マッサージ)

人工呼吸後、直ちに心臓マッサージを開始し、全身に血液を送る。両手を重ね、ひじを真っすぐにして垂直に体重をかけ、胸を4~5cm圧迫する。1分間100回のリズムで30回行う。



心臓マッサージ(30回)と人工呼吸(2回)を救急隊に引き継ぐまで繰り返す。途中、傷病者がうめき声を出したり、普段どおりの呼吸をし始めた場合は中止する。

心臓マッサージ  
30回  
↓  
人工呼吸2回



自助・共助・公助